

平成25年度第1回野菜需給・価格情報委員会の概要

1 日時

平成25年7月12日（水）13：30～15：30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 北館6階大会議室

3 概要

「平成25年産春野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、夏秋野菜の需給・価格の見通しについて、7月3日開催の消費分科会で出された意見等を踏まえ意見交換。その概要を藤島座長が取りまとめ、各委員に了承を得た上で、7月18日開催の平成25年度第1回野菜需給協議会に報告することとなった。

夏秋野菜の需給・価格の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

(1) 夏秋キャベツ（7～10月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、群馬は前年をやや下回り、長野は前年並み、北海道は前年をかなり下回る見込み。
- ・ 生育状況は、低温・干ばつの影響で生育等の遅れが見られたものの、その後、生育は回復傾向となり、現在の生育は順調。
- ・ 出荷量は、9月までは前年並み、10月は前年をかなり下回り、期間全体で前年並みで、平年をやや上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 加工・業務用においては在庫が少ないことに加え、小玉傾向のため加工歩留まりが悪いことから、需要増が見込まれる。そうした中、加工業者等が契約数量を減らしており、市場調達が増える可能性がある。
- ・ カット野菜での使用頻度が上がっている中で、カット野菜用の品種の産地形成が課題となっている。
- ・ 価格は、期間を通して、安値だった前年を上回る見込み。

(2) 夏だいこん（7～9月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、北海道は近年の価格低迷から前年をやや下回り、青森及び岐阜は前年並みの見込み。
- ・ 生育状況は、北海道は、低温・干ばつ等の影響から遅れていた生育が回復基調となったものの、平年よりも1週間程度の遅れが見られる。青森及び岐阜は、低温による播種の遅れがあったものの、その後の好天により、前年並みの生育となっている。
- ・ 出荷量は、7月は前年をやや下回り、8月以降は前年並みとなり、期間全体では前年及び前年並みになる見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 需要が減少しているため、需要拡大のために新たなレシピの提案が必要となっている。
- ・ 加工・業務用においては、サラダ向けの切りだいこんの利用が増加している。
- ・ 作付面積が減少し、干ばつで生育が遅れており、契約取引がしづらい状況となっている。

いることから、市場調達が増える可能性がある。また、夏場の高温障害に注視が必要と考えられる。

- ・ 価格は、7月は前年を上回り、8月及び9月は前年並みになる見込み。

(3) たまねぎ（7～9月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、北海道、佐賀、兵庫ともに前年並みの見込み。
- ・ 生育状況は、北海道は降雨・低温により定植の遅れがあったが、その後の生育は、1週間程度の遅れが見られるものの回復が見込まれる。
- ・ 出荷量は、府県産の在庫が潤沢であることから、7月及び8月は前年を上回り、9月は前年を下回り、10月は前年並みとなり、期間全体では前年をやや上回り、平年をかなり上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 加工・業務用については、中国産（山東省）が豊作となり、安値での輸出が可能となっていることから、国産に回帰していたものが、再度中国産に回帰することが見込まれる。
- ・ 価格は、9月までは前年を下回り、10月は前年並みの見込み。

(4) 秋にんじん（8～10月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、北海道は前年をやや下回り、青森は前年並みの見込み。
- ・ 生育状況は、北海道は、低温・干ばつの影響があり、1週間程度の遅れが見られ、青森は、低温による播種の遅れがあったが、その後の好天により前年並みとなる見込み。
- ・ 出荷量は、8月は前年をやや下回り、9月は前年をかなり上回り、10月は前年並みとなり、期間全体では前年並みで、平年をかなり上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 他の食材と一緒に提供されることが多いため、新たなメニュー提案が必要となっている。
- ・ 加工・業務用では、歩留まりの良い中国産に対する一定の需要が見込まれる。
- ・ 価格は、8月は前年を上回り、9月及び10月は前年並みの見込み。

(5) 夏はくさい（7～9月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、長野は前年をやや下回り、北海道は前年をかなり下回り、群馬は前年並みの見込み。
- ・ 生育状況は、長野は、干ばつによる生育の遅れが見られたものの回復基調となる中で、最近の高温の影響が出始めている。北海道は、低温・干ばつの影響による生育の遅れが見られたが、好天により回復傾向となっている。群馬は、降雪・低温の影響による生育の遅れが見られたが、好天により生育が順調となった。
- ・ 出荷量は、7月及び8月分を9月にシフトしたことから、7月は前年をかなり下回り、8月は前年をやや下回り、9月は前年をかなり上回り、期間全体では前年及び前年並みとなる見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 家庭での需要が少ないため、外食事業者に対して、はくさいを使用したサラダのメニュー提案をしている。
- ・ はくさいの需要が減少している中で、依然としてO157の影響が残っているほか、

加工・業務用の契約数量も減少している。

- ・ 価格は、7月及び8月は前年を上回り、9月は安値だった前年並みの見込み。

(6) 夏秋レタス(6～10月)

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、長野は前年をやや上回り、群馬及び茨城は前年並みの見込み。
- ・ 生育状況は、長野は、干ばつの影響による生育の遅れがあったが、その後の降雨により増加傾向となったものの、最近の高温による影響から出荷量の伸び悩みが見られる。群馬は、生育の遅れが見られたものの、作柄は良好となっている。
- ・ 出荷量は、7月から9月までは前年をやや下回り、10月は前年並みで、期間全体では前年並みで、平年をやや上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 家計消費では、高値のため販売しにくい一方、加工・業務用では、サラダうどん等の需要が増加している。
- ・ 加工・業務用向けに安定した出荷が困難なため、一部の実需者において、契約産地を一時的に休ませるための輸入を検討中。
- ・ 価格は、7月から9月までは供給が減少するため前年を上回り、10月は前年並みの見込み。